ツナグ、ツタエル、マナブ。

これからの宝塚ボランタリープラザ
愛称 zukavo
がめざすこと

社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会

CONTENTS

1 これからの宝塚ボランタリープラザzukavoが担う機能や役割
平尾昌也

3 ボランティアと市民活動
早瀬　昇

4 ボランティア活動の推移

5 あらゆるボランタリー活動を応援します

7 これからの宝塚ボランタリープラザzukavoの重点的な取組み

これからの宝塚ボランタリープラザzukavoが担う機能や役割

Masaya Hirao

関西学院大学人間福祉学部助教

平尾昌也

近年、人々の暮らしの個別性が高まり、近隣や住民同士の関わりの希薄化が進んだ結果として社会的孤立が引き起こされ、大きな問題として社会全体で認識されている。その一方で、この問題を解決することは簡単でないことも私たちは理解している。解決したいと思っていても難しいこの問題のジレンマは、地域社会でのつながりや関わりの重要性と具体的な解決策を検討する必要性を地域社会で再認識することが求められているのではないかと思う。

これからのボランティア活動センター（以下「ボランティアセンター」という）はどのような役割を担うことができるのか、どのような役割を求められているのであろうか。本報告書では、上記のような疑問をさまざまな立場の方々と一緒に検討し、これからの宝塚市のボランタリー活動を支え、発展させるためのボランティアセンター運営委員会ワーキングで議論してきた結論を報告するものである。

これまで、地域社会との繋がり方の一つにボランティア活動があり、活動者と参加者とが出会い活動へ参加することで繋がりを生み出してきた。この出会いをコーディネートする役割を担ってきたのがボランティアセンターであった。私がボランティアセンター運営委員会の委員として参加すると、ボランティアセンターの名称変更に関する議論が継続して課題として残されていることを知った。当時の委員の方々や職員から話を聞くと、名称変更の議論の本質は「これからのボランティアセンターが担う機能や役割」を検討することにあり、その結果を受けて必要に応じて名称変更を行うことで「看板をかけ替えてリニューアルする」ことを広く発信することにあるのではないかと結論に至った。これまでボランティアや地域社会と共に積み上げてきたボランティアセンターの実践を関係者と共に整理し、これからのボランティアセンターの機能や役割を地域社会へ示すことが求められているのだろう。

ひとくちにボランティア活動といっても、その活動はさまざまである。その背景には、地域社会にあるニーズや課題の多様化が見え隠れしている。暮らしの在り方の変化に伴い、地域で暮らす人々の繋がりは希薄化していることは事実であるし、生活の困りごととして顕在化する内容も変化してきている。

これからのボランティアセンターとして求められる機能は大きく２点である。まずは、多様な活動主体を幅広くコーディネートすることである。ボランティアセンターとしてコーディネートする活動主体の対象を拡大して、活躍の場を提供することが求められる。次に、ボランタリー活動を地域社会づくりへと繋げる役割である。ボランタリー活動は、行政や社会制度を補完するものでは決してなく、住民による住民のための自発的で主体的な活動である。生活に最も近くで取り組まれている活動は、地域社会の住民同士の支えあいそのものであり、地域社会を形成する重要な一部であることを、活動者と参加者という関係性を越えて意識化されることが重要である。単に活動と個人、活動と活動、個人と個人を繋げるだけでなく、繋がったことが持つ意味や意義を共有することができる環境もコーディネートすることを期待したい。

宝塚市ボランティア活動センターは、令和4年7月1日より、
宝塚ボランタリープラザzukavo（ヅカボ）に名称を変更しました。

ボランティアと市民活動

大阪ボランティア協会理事長
早瀬　昇
Noboru Hayase

「ボランティア」という言葉と共に「市民活動」という言葉もよく耳にするようになりました。「ボランティア」が日本の国語辞典に初めて掲載されたのは1969年、広辞苑の第2版で す。元々、英語をルーツとする外来語ですが、今や言葉としてはすっかり定着しています。

一方、「市民活動」は1996年に市民活動促進法案が国会に審議される頃から普及したもので、それ以前は「市民公益活動」などと言われたりしていました。

両者は共に市民の自主的な社会活動を指し、市民活動の一つのスタイルとしてボランティア活動がある…という関係になります。なお、兵庫県では「ボランタリー活動」という言葉もよく使われます。

ボランティア活動は「やる気・世直し・手弁当」と言われるように、社会課題の解決を無償で取り組む活動を指します。もっとも、交通費など活動に必要な経費の保障は「実費弁償」と呼び、この経費を受け取っても報酬を受け取ったこととはみなされません。一方、市民活動という場合、無償の活動だけでなく有償の取り組みも含まれ、仕事として専従で取り組む場合も含まれます。

ボランティアは対価など活動に意欲を感じて無償で活動しますが、実は無償であることにはプラス面もあります。マイペースで活動を進めやすく、金銭的評価にとらわれず自負をもって活動でき、かつ私欲の無い行動であるがゆえ発信力も高まりやすくなるからです。一方、報酬を得て活動する場合、余暇活動を超えて専従化して活動を進められ、専門性を高めたり、サービスを日常的に提供しやすくなります。

もっとも、有償活動の維持には、人件費をまかなう収入を安定的に得続けることが不可欠。ボランティア活動の場合、メンバー間の協力や新たな仲間作りなどが課題になりやすいわけですが、有償活動では、活動資金の確保が大きな課題となる場合が多くなります。

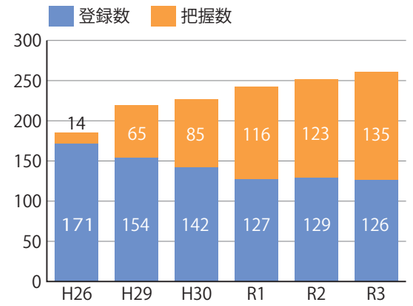
ボランタリー活動、市民活動と呼称は多様ですが、市民の自主的社会活動はそれぞれに合わせた多様なスタイルで取り組むことができます。しかも、活動に参加することで健康や積極性、さらには幸福感が高まることが、多くの調査で実証されています。

もっとも、何かしたくても何をするかを決められないと始められません。また、社会に関わる活動に固いイメージを持つ人も少なくなく、始める際のハードルが高いのも事実。そこでボランティアセンターでは、まず関心や特技に合わせて様々な活動を紹介できる情報収集力やネットワーク力が求められます。さらに、短時間でも一定の成果を達成できるプログラムの開発も重要。活動参加率が低い働く世代にも参加の機会を提供し、さまざまな立場の人たちの創意工夫で世の中をより良くしていく拠点としてボランティアセンターの活動がさらに活発化することを願っています。

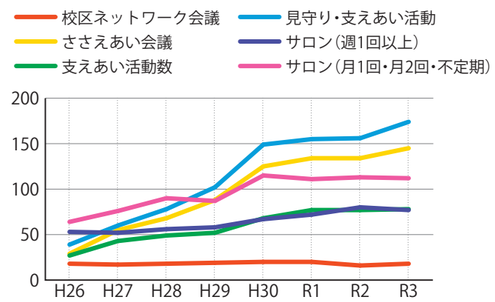
ボランティア活動の推移

1 ボランティアグループの推移（登録グループ数・把握グループ数の変化）

（1）ボランティアグループについて



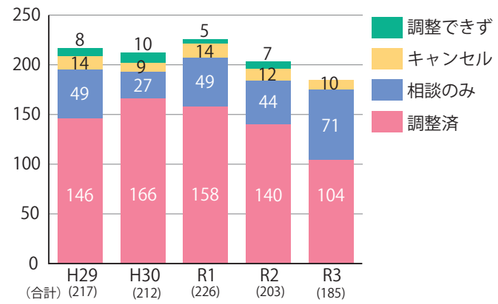
（2）地域福祉活動の変遷
（宝塚市生活支援コーディネーター活動実績報告書より抜粋）



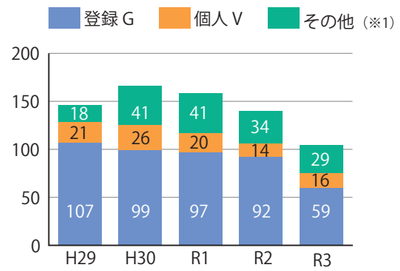
＊ボランティア活動センターへの登録グループ数は減少傾向にあるが、把握グループ数は増加しており、ボランティアグループに限らず、民間事業者やNPO法人、個人ボランティア、地域活動団体等、さまざまな活動主体者間のつながりは、広がりつつあります。また、地域での見守り・支えあい活動が年々増加しており、地域活動が活性化しています。

2 相談及びコーディネート件数推移

（1）ニーズへの対応



（2）コーディネート先



※1）地域活動団体、NPO法人、社会福祉法人など

3 課題と今後の取り組み

＊社会情勢は年々、変化していますが、相談及びコーディネート件数に大幅な変化は見られません。しかし相談内容は、多様化・複雑化しており、登録グループへのコーディネートだけでは対応できておらず、登録グループ以外の団体の把握や新たな課題へ取り組む団体の組織化などを進めていく必要があります。

＊より広い市民活動の活性化をめざしていくため、テーマや対象を広げた市民活動の把握と活動支援をおこないます。また、さまざまな団体との協議の場を設け、新たな活動を創発するネットワークづくりをすすめていきます。

＊市内外のセルフヘルプグループとのネットワークを広げ、市民への情報発信、支援体制を強化します。

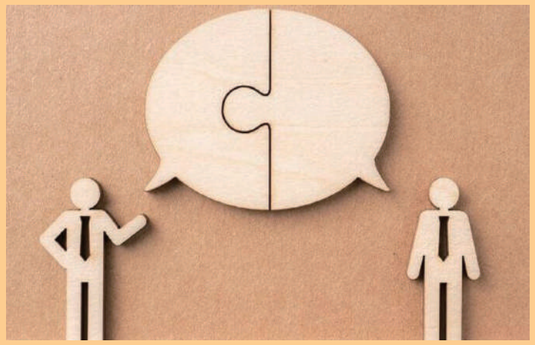
＊当事者の声やニーズを市民とともに学ぶ機会をつくり、当事者をサポートするボランタリーな活動者を増やしていきます。

あらゆるボランタリー活動を応援します。

これからの宝塚ボランタリープラザzukavoの3つの柱

繋（ツナグ）

あらゆる人・活動・組織をつなげ、ボランタリー活動を推進します。



伝（ツタエル）

ボランタリー活動の広がりをすすめる総合的な拠点として、地域や活動・分野に関わらず、さまざまな情報を収集・整理し、提供・発信します。

学（マナブ）

多様性を認めあい、つながりあう社会を作っていくことをめざします。

あらゆる人や組織が活動するために必要な環境（場所・機会・情報など）を整え、主体的な活動を応援します。
それらの活動を通じて多様性を認めあい、参加する人や組織の力を活かして誰一人取り残さず安心して生活できる地域づくりをめざします。

これからの宝塚ボランタリープラザzukavoの目標

- あらゆる人や組織のネットワークづくりを推進します。
- あなたと○○がつながるきっかけづくりをします。
- 活動者がともに学び、発見できる機会を設けます。
- さまざまなツールを活用した、情報の収集・発信をおこないます。
- あらゆる当事者のボランタリー活動への参加を応援します。
- 多様性を認め互いに支えあえる地域をめざし、福祉学習をすすめます。
- 災害時にボランタリー活動がスムーズにおこなえるよう備えます。

これからの宝塚ボランタリープラザzukavoの重点的な取組み

1 あらゆる人や組織のネットワークづくりを推進します。

重点項目
◆広く市民が集える場づくりをします。
◆地域の様々な団体・企業・教育機関とのネットワークづくりをすすめます。

説明
◆ボランタリー活動やまちづくりの活性化をめざし、あらゆる人や地域のさまざまな団体・企業・教育機関が気軽に出会える場や機会を設け、交流を通して新たな活動の輪を広げるつながりづくりをします。

2 あなたと○○がつながるきっかけづくりをします。

重点項目
◆あらゆる人が気軽に参加できるプログラムを開発します。
◆世代に応じたツールを活用した参加を促進します。

説明
◆これから活動をはじめようとする人に向けて気軽に参加でき、活動のきっかけとなるような講座やプログラムを実施します。
◆それぞれの世代に合ったツール（チラシ、SNS、声掛け等）を使い、活動に関する情報を伝え、参加するきっかけや動機を提供します。

3 活動者がともに学び、発見できる機会を設けます。

重点項目
◆多様なニーズに対応したボランタリー活動を推進します。
◆学びあう機会を提供します

説明
◆活動者が市民や団体と連携することで、互いに共通する関心や悩みなどに気づき、協働・創造しあえる活動プログラムを開発します。
◆活動者のスキルアップや知識向上のための学習の機会を提供します。

4 さまざまなツールを活用した、情報の収集・発信をおこないます。

重点項目
◆ボランタリー活動の情報が集まる情報拠点をめざします。
◆世代に応じたツールを活用しボランタリー活動に関わる情報を発信します。

説明
◆市内外のボランタリー活動に関する情報を集約し市民目線で情報発信ができる情報センターをめざします。また、世代によって活用するツールが異なるので、世代に応じた媒体を活用します。
◆情報を得にくい方へ必要な情報を届け、プラザの存在を知っていただき、新たなニーズや情報が集まるよう働きかけます。

5 あらゆる当事者（※1）のボランタリー活動への参加を応援します。

重点項目
◆当事者同士が出会う場づくりと、組織化をめざします。
◆当事者のニーズや声をもとに市民とともに新たなうごきを創り出します。

説明
◆あらゆる当事者がボランタリー活動に主体的に参加し、仲間とつながる機会の提供やセルフヘルプグループ（※2）の立ち上げをサポートします。
◆市民とともに、当事者のニーズを社会のニーズととらえ、企業や行政・さまざまな団体と協力しながら社会資源やプログラムを創り出します。

※1当事者…生活環境や社会関係、思いなど、さまざまな事情で悩みのある人や家族。
※2セルフヘルプグループ…当事者や家族が思いや体験を共有し、自分らしく生きていく力を得ることを目的としたグループ。

6 多様性を認め互いに支えあえる地域をめざし、福祉学習をすすめます。

重点項目
◆多様性を認め、支えあえる地域づくりを推進します。
◆当事者とともに福祉学習をすすめます。

説明
◆市民とともに福祉学習をすすめ、多様性を認めあい、誰もが支えあえる地域づくりをめざします。
◆福祉学習に当事者がかかわり、お互いの理解を深めあう福祉学習プログラムづくりを当事者とともにすすめます。

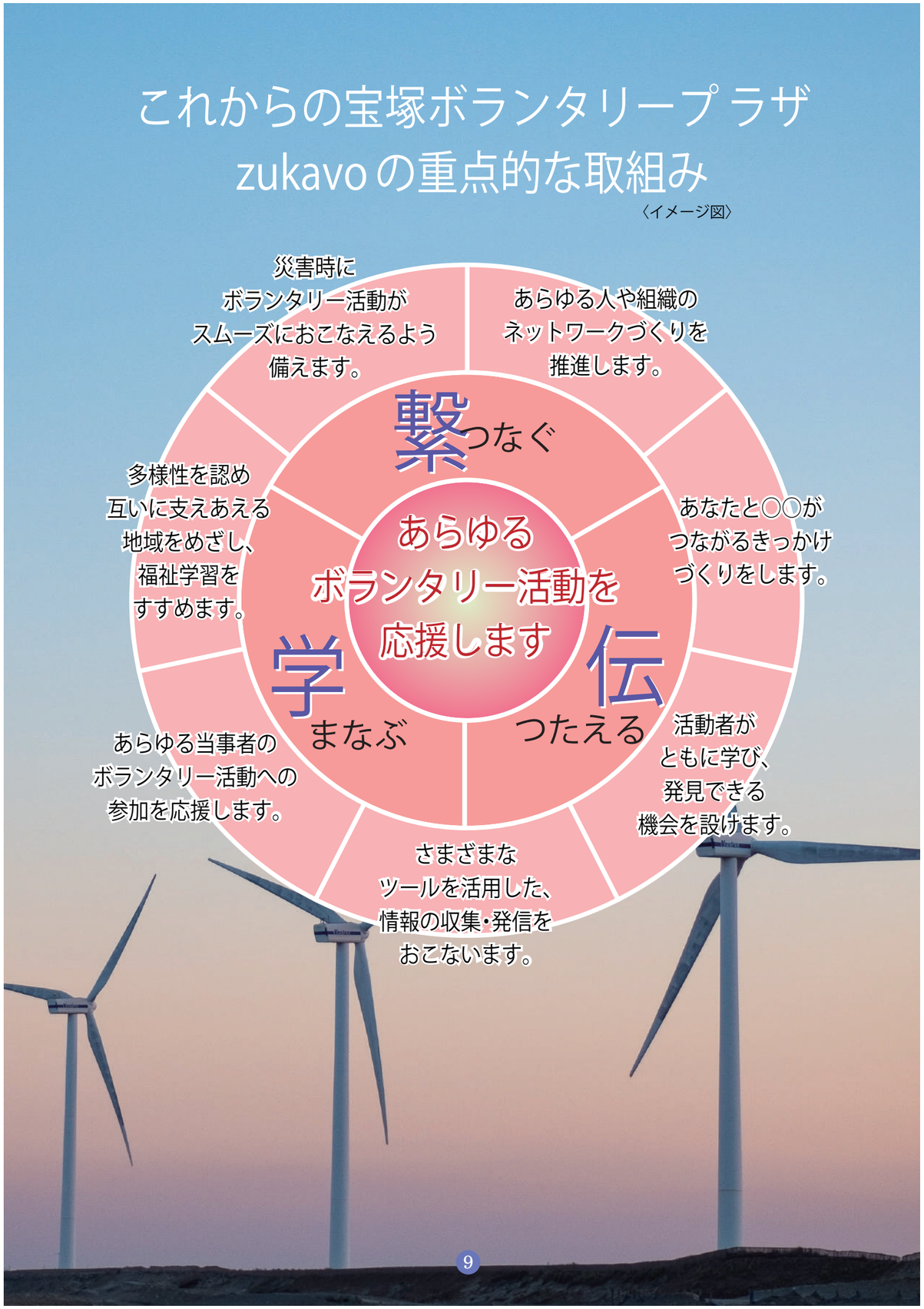
7 災害時にボランタリー活動がスムーズにおこなえるよう備えます。

重点項目
◆災害時に備えたネットワークづくりをすすめます。
◆災害ボランティアを育成します。
◆市民への防災意識の向上を図ります。

説明
◆日頃からボランティアや企業などの協力団体とのネットワークづくりをおこない、災害時にはボランティア活動がおこなえるよう備えます。
◆災害ボランティアの知識や技術の向上に努めます。
◆災害に強いまちづくりをめざすために、減災・防災学習の機会を作ります。

これからの宝塚ボランタリープラザ zukavo の重点的な取組み

〈イメージ図〉



【おわりに】

ここ数年で社会環境やみなさんの考え方が変わり、災害も頻発しています。そして、コロナ感染拡大で、生活も大きく変わりました。

今までは、社会に合わせて、少しずつボランティアセンターの活動も変化していましたが、改めて活動内容を整理すべく、2020年10月にワーキングを立ち上げ、検討してきました。イメージを言葉で表すのは難しく、何度も言葉の修正をしたり、緊急事態宣言が出て集まれず、オンラインでの会議になったり、頭を悩ませましたが、ワーキングメンバーの協力により、ようやく完成しました。

ワーキングとしては、これでゴールですが、「宝塚ボランタリープラザzukavo」としては、ここからがスタートです。まずは、新しい名前「宝塚ボランタリープラザzukavo」を1人でも多くの人に知ってもらうこと、そして、気軽に足を運んでもらうことを皮切りに、様々な活動や出会いが、ここで生まれる事を願っています。

それには、みなさんの協力が必要です。ぜひ口コミで宣伝してください。共に「宝塚ボランタリープラザzukavo」を盛り上げてください。

少しでも住みやすい地域になりますように・・・、1人でも多くの人が、安心して生活しやすくなりますように・・・

最後になりましたが、この冊子を作るにあたって、ご尽力いただいた皆様に感謝します。

宝塚市社会福祉協議会理事
ボランティア活動センター運営委員会委員長
大西 登司恵

◆宝塚市社会福祉協議会ボランティア活動センター運営委員会ワーキングメンバー（敬称略）

池本　祐子	宝塚市役所　地域福祉課係長（令和3年4月～）
井上　知佳	アレルギーサークル zukalle ひろば代表
大西　登司惠	宝塚市社会福祉協議会理事、ボランティア活動センター運営委員会委員長
黒木　翔維斗	コープこうべ第1地区活動本部マネージャー
笹田　光治	売布小学校区まちづくり協議会会長
龍見　奈津子	宝塚にしたに里山ラボ代表
戸田　達男	兵庫県社会福祉協議会　地域福祉部部長
早瀬　昇	大阪ボランティア協会理事長
平尾　昌也	関西学院大学助教、ボランティア活動センター運営委員会副委員長
山﨑　雅士	宝塚市役所　地域福祉課係長（令和2年10月～令和3年3月）

令和4(2022)年8月発行
「これからの宝塚ボランタリープラザ
zukavoがめざすこと」

編集・発行
社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会
宝塚ボランタリープラザ zukavo
〒665-0867
宝塚市売布東の町 12-7ぷらざこむ１内
TEL.0797-86-5001／FAX.0797-83-2425
E-mail：avolun@nifty.com
ホームページ：https://zukavo.com